

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

ケンタッキー州のキーンランド競馬場で11月6日と7日の両日にわたって開催された今年のブリーダーズCで、2歳牡馬の最強馬を決めるG1BCジュヴェナイル(d8.5F)を制したエッセンシャルクオリティ(牡2、父タピット)が、今週のこのコラムの主役だ。

北米で走り、G3ベッドオローラズS(d7F)3着などの成績を残したデイライトフルクオリティの4番仔となる同馬は、ゴドルフィンによる自家生産馬だ。ブランドックス厩舎に入厩し、9月5日にチャーチルダーラインズのメイドン(d6F)を4馬身差で制しデビュー勝ちを果たしている。この勝ち方に意を強くした陣営は、10月3日にキンランンドで行われたG1ブリーダーズブリューチュリティ(d8.5F)を次走に選択。一気に相手が強化されたことも、エッセンシャルクオリティは3.1/4馬身差で快勝。デビューア戦目にしてG1制覇を果たすことになった。

BCジュヴェナイルに駒を進めてきたエッセンシャルクオリティを、ファンはオッズ4.6倍の2番人気に支持。オッズ1.9倍の抜けた1番人気に推されていたのが、G1ホープフルS(d7F)、G1シャンパンS(d8F)と2つのG1を含む無敗の4連勝でここへ臨んでいたジャッキーーズウォリアー(牡2、父マクリーンズミージック)だった。

ケンタッキー州のキーンランド競馬場で11月6日と7日の両日にわたって開催された今年のブリーダーズCで、2歳牡馬の最強馬を決めるG1BCジュヴェナイル(d8.5F)を制したエッセンシャルクオリティ(牡2、父タピット)が、今週のこのコラムの主役だ。

北米で走り、G3ベッドオローラズS(d7F)3着などの成績を残したデイライトフルクオリティの4番仔となる同馬は、ゴドルフィンによる自家生産馬だ。ブランドックス厩舎に入厩し、9月5日にチャーチルダーラインズのメイドン(d6F)を4馬身差で制しデビュー勝ちを果たしている。この勝ち方に意を強くした陣営は、10月3日にキンランードで行われたG1ブリーダーズブリューチュリティ(d8.5F)を次走に選択。一気に相手が強化されたことも、エッセンシャルクオリティは3.1/4馬身差で快勝。デビューア戦目にしてG1制覇を果たすことになった。

BCジュヴェナイルに駒を進めてきたエッセンシャルクオリティを、ファンはオッズ4.6倍の2番人気に支持。オッズ1.9倍の抜けた1番人気に推されていたのが、G1ホープフルS(d7F)、G1シャンパンS(d8F)と2つのG1を含む無敗の4連勝でここへ臨んでいたジャッキーーズウォリアー(牡2、父マクリーンズミージック)だった。

レースは、半マイル通過が45秒31というハイペースになった中、好位追走から4コーナーで先頭に立つという積極的な競馬をしたジャッキーーズウォリアーは、残り1Fで脚色が鈍り4着に敗退。前半は8番手に控え、3コーナー過ぎから進出して4番手で直線に向いたエッセンシャルクオリティが、直線で鮮やかに抜け出して優勝。この勝利を含めてコックス調教師は、今年のBCで4勝を挙げるといつ、自覚正しい活躍を見せるこことなった。

さて、タピット産駒らしい息の長い末脚を駆使したそのレース振りから、更なる距離延長も問題なしと見られているエッセンシャルクオリティは、当然のことながら来年のG1ケンタッキークラシック(d10F)の最有力馬となり、英国のブックメーカー各社も前売りで同馬に11～13倍のオッズを掲げて、1番人気に支持している。ゴドルフィンの主宰者シェイク・モハメドについて、手にしていない数少ないビッグタイトルの1つがケンタッキークラシックだけに、殿下の悲願が達成されるかどうかという意味でも、興味深いケンタッキークラシックとなりそうである。

エッセンシャルクオリティは、その牝系をひもといていた大く、日本の競馬ファンの皆様にもグッと身近な存在になるはずだ。というのも、母デイライトフルクオリティの6歳年上の半姉が、05年にG1B

Cジュヴェナイルファイナル(d8.5F)を制し全米最優秀2歳牡馬に選ばれた父オーフロードなのだ。

競馬ファンの皆様ならご存知のように、今年日本に誕生した無敗の3冠馬コントレールの祖母がフォーオーフロードで、エッセンシャルクオリティの牝系図を見ると、ごく近いところにCONTRAIL (JPN)の文字が太字でくっきりと描かれているのである。この牝系の価値が、コントレールとエッセンシャルクオリティのおかげで、急上昇したことは間違いない。

ブリーダーズCの直後にケンタッキーで開催されたファシングティップトン・ノヴェンバーセールでも、この牝系を背景に持つ2頭の牡馬が、日本人によって購買されている。

ブリーダーズCの直後にケンタッキーで開催されたファシングティップトン・ノヴェンバーセールでも、この牝系を背景に持つ2頭の牡馬が、日本人によって購買されている。

1頭は、269番として上場されたインデリブル(牝4)で、同馬はエッセンシャルクオリティの2歳年上の半姉だ。ナイキストを受胎している同馬には、160万ドル(約1億6696万円)という高値がついている。

もう1頭は、270番として上場された当歳牡馬で、同馬はエッセンシャルクオリティの姪にあたる。こちらの価格は26万ドル(約2713万円)だった。

繁殖牝馬として日本に導入されれば、いずれも大きな価値を持つことになりそうだ。